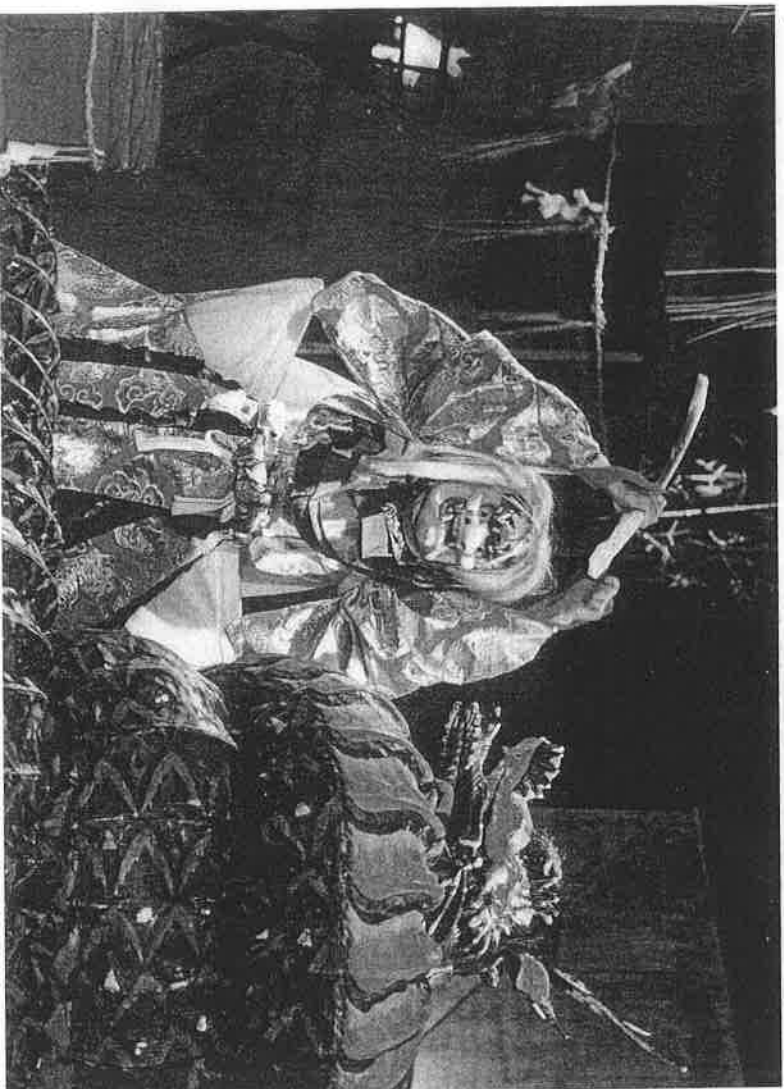


中江岩戸神楽保存会 (地域文化活動部門)



概要

- 設立 昭和の時代
会長 榎木野 霞
所在地 阿蘇郡波野村大字中江
電話番号 〇九六七―四二九六一
主な活動地 熊本県内

これまでの活動歴

- ・昭和三十五年五月 熊本県重要無形文化財指定
- ・昭和三十五年八月 N区ふるさとの歌祭出演
- ・昭和五十年十二月 無形民俗文化財記録保存として国の指定を受ける
- ・昭和五十二年十一月 全国農業祭に出演及び明治神宮奉納
- ・昭和六十年五月 第一回日本神楽大会（大分県）出演
- ・昭和六十年十一月 第一回熊本県民俗芸能大会出演
- ・昭和六十二年十月 第二回国民文化祭出演
- ・平成二年一月 県立劇場二十三座完全復元公演・N区衛星放送出演
- ・平成六年十月 地域伝統芸能全国フェスティバル出演
- ・平成七年七月 韓国公演

中江岩戸神楽は、波野村中江地域の教神社に奉納する神楽で文化庁の選択無形文化財や県の重要無形文化財に指定された二百数十年余りの伝統を持つ郷土芸能である。

神楽は、今より約二百年前の明和の時代、宮神楽に里神楽及び宮中雅楽と日本の久米舞の新しい色彩を持つ衣装をつけた舞楽を織り交ぜ、日本の神話「天の岩戸」の神事を主体に五方礼始に始まり大神で終わる二十三座をひとつの芸能として構成されたもので、それが波野村にも伝わり今日まで伝承された。

しかし、近年社会情勢の変化により、二十三座も次第に舞われなくなり完全な形での保存継承が難しくなっていた。このような中、平成二一年熊本県立劇場での公演が計画され二十三座の復興に努力し、この一昼夜公演で完全復元を成し遂げ、県内はもとより、全国に大きな反響を呼んだ。この復元は、資料の収集という地道な努力や様々な困難を乗り越え、農事多忙な時も激寒の冬の夜も血を吐くような練習の末に成功したものである。

現在は、神楽フェスティバルやゴールデンウィーク神楽特別公演など、年間五十〜六十の公演を村内外で行っているほか、中江地区の小中学校生を対象に地域文化の継承と復興を目的に子供神楽部会を指導している。波野村が神楽による活性化を図っている中、大きな役割を果たすとともに、県内の神楽の保存継承の先駆的役割を果たし、伝統文化の発展と向上に貢献している。